

「ピースアクション in ヒロシマ」に参加して

今回のピースアクションで初めて広島をおとずれました。

前まで家で原爆のことを動画などで調べていましたが、今回の広島で原爆の悲惨さがもっとよくわかりました。

もう、人々にはこのような苦しみをを感じる事が無くなると良いと思います。原爆が落ちた後も、白血病で苦しむ人も沢山いたと分かりました。

原爆が落ちた途端に消えた街と聞くと、すごく胸が苦しくなります。

家族を失った人の悲しみがすごくよく分かりました。

原爆の子の像のモデル、佐々木禎子さん。

白血病の苦しみに耐えながら折った鶴を

見てみるとすごく小さく、必死に折った事が伝わってきます。像の周りの沢山の千羽鶴と平和を願うメッセージで胸がとても熱くなりました。

今まで他人事だと思っていたけれど、広島に行ってから、原爆の苦しみを自分のことのように思う事ができました。

今回のピースアクション広島で、すごく貴重な体験をすることができ、よかったです。

K.Y さん

今回のピースアクションで、人生で初めて広島を訪れました。

原爆については教科書で学んだ程度、「はだしのゲン」もすべて読破したわけではなく詳しいことは理解しきれてはいませんでした。

しかし自分の生まれ育った国で起きたこととして、しっかりと知っておく必要があると強く感じました。

とても印象的だったことが2点あります。

1つは平和記念資料館。展示物の一つ一つにその持ち主や被爆時の状況が書かれており、確かにその場所に生きていた人たちがいることが感じられました。本当に一瞬で街が崩壊、たくさんの命が奪われ、放射能による後遺症に苦しむ方も大勢いることに胸がぎゅっと締め付けられました。悔しさ、悲しさ、無念さ…いろいろな思いもこみ上げてきました。

もう1つは原爆の子の像に飾られていた多数の千羽鶴と平和を願うメッセージです。広島だけではなく他県からも寄せられたメッセージに胸が熱くなりました。

どこか他人事のように感じてしまっていた8月6日のできごと。現地を訪れたことでなんとなくでも「当事者」意識が芽生えた気がしています。

今私にできる最大の“ピースアクション”は、「今回の学びを忘れないこと」。そして自分なりの言葉で誰か身近な人に伝えることも大事なのではないかと思います。

K.Y さん（小学生）

私が広島を訪れたのは今回が初めてでした。

私は原爆について、「日本が唯一の被爆国であること」や「1945年8月6日に広島が、9日に長崎が被爆したこと」など大まかなことしか知らず、具体的なところは何も知りませんでした。

しかし、妹が国語の授業の関係で広島について調べていてその内容を見た時に1人の日本国民としてこの国に何が起こっていたのか、しっかりと知る必要があると考えました。

原爆は本当に一瞬にして、街とそこに暮らすたくさんの人々の日常や命を奪ったことを改めて感じ、自然と涙が込み上げてきました。

また、怪我を負って生活に支障が出ている方や、放射能によって後遺症が出てしまった方など、原爆が人々を苦しめたのは一瞬だけではありませんでした。

原爆の子の像のモデルの佐々木禎子さん。

白血病により12歳の若さで亡くなりました。今の私と同じ歳です。

禎子さんは「鶴を1000羽折ると願いが叶う」という言い伝えを信じて鶴を折りつづけました。それはとてもとても大変だったと思います。

禎子さんの同級生たちが「原爆で亡くなったすべての子どもたちのために慰霊碑をつくろう」ということでつくられた原爆の子の像。

右手は原爆の恐ろしさを、左手は平和を、軽く閉じた目は被爆者の方へのご冥福を表しているそうです。

原爆はたくさんの人を苦しめました。

でも、原爆死没者慰霊碑の石室正面には「安らかに眠ってください 過ちは繰り返させぬから」と刻まれています。これは過去の悲しみや憎しみを乗り越えて、真の世界平和を願うものです。

この考え方は素敵で、すごいことだと思います。

原爆を落とした国アメリカを恨み、仕返しをすることもできるからです。

しかし先人はそう思いませんでした。

同じ思いを誰にもさせてはならない。優しさにあふれていると思いました。

そして今回、分科会に参加して河野キヨ美さんのお話を聞きました。

たくさんのお話を聞けてよかったです。私が一番心に残ったのは、河野キヨ美さんが最後におっしゃっていた「核兵器は人が作ったものだから人が終わらせてほしい」という言葉です。

戦争も核兵器もない未来が訪れるためにはどうしたらいいのか

私なりに考えてみようと思いました。そしてそれを後世に伝えていくことが大切だと思います。K.Mさん（小学生）

広島に行ってみた感想

私は戦争の事について今まで学校や

テレビで十分に知る事ができたと思っていましたが、それは違いました。まず原爆ドームを目の当たりにしたとき驚愕と哀傷の気持ちになりました。具体的には約 160m の至近距離で被爆したのにも関わらず、一部損傷しながらも形を留められたことに驚き、当時どのような悲劇が起きたのかを実際に見て感じ取る事ができました。次に広島平和記念資料館で、ここにしかない当時物を鑑賞しました。被爆者の症状を物語る写真や絵のどれもが残酷で非常に胸が締め付けられるような気持ちになりました。被害者の中には幼子もいて、周りの大人や家族全員を失ってしまった子のその後の生活を想像すると心苦しいです。そして、当時被爆した方のお話を聞き、改めて戦争の悲惨さと平和の大切さを学ぶことが出来ました。

知っていた気になっていたり、まだ公にされていない事が沢山あってもたりしても日本人として知るべきことを知れて良かったと思いました。貴重な体験でした。

I.N さん（高校生）

初めて広島を訪れました。

なんとなくの知識だけだった原爆投下のことを知ることができました。

今もいくつかの戦争が続いており、それを望まない色々な国の方が資料館にたくさんいました。

自分や家族、友人知人が同じ目にあうのを許容できるのか？その事だけでも決して行
ってはいけない事だと子供でもわかります。

被爆当事者の方のお話しも聞き、90歳を越えているにもかかわらず澁刺として、情感
豊かに体験を語る様に圧倒されました。

なぜ戦争がダメなのか、他人事ではなく自分の事として捉える。メディアを通してで
はなく、体感する事で教育の大事さも感じました。

悲惨さは目にする機会が少ないけれど、今回の経験を身近な人たちに伝えていき、少
しでも関心を持ってもらえるようにしたいと思います。

何事も知ることが大切。自分事として考えられる事が平和に繋がると感じた広島訪問
でした。

貴重な機会をいただきありがとうございました。

I.M さん

ピースアクション in ヒロシマに参加して

パルシステム埼玉 H.A さん

戦争のことや広島のこと、幼いころから両親から聞いたり映像や写真を見たりして知っているつもりになっていました。でも今回この企画に参加して、実際に被爆者の話を聴いたり、映画の製作者や実際に活動されている方の話を聴く貴重な体験で、とても心を動かされました。生の声は作られたものではない、心に響くものでした。

河野キヨ美さんの、「戦争は被害者にも加害者にもなる」という言葉が印象的でした。確かに日本は戦争で多大な被害を受けましたが、海外では加害者になった事実も忘れてはいけないと思います。学校でも被害のことは教えても、加害の実態は教えないので、そこも併せて教えなければいけないと思いました。

平和記念資料館では、戦争の恐ろしさ、原爆の悲惨さ、その後も続いた苦しみが今もなお続いているという現実を思い知らされました。原爆で受けた被害だけでも物凄いものだったのに、その放射能の影響がその後ずっと続いて広島の人を苦しめ続け、その被害はこれからも続いてしまうというのに、その後核実験が500回以上行われていて、その都度被爆者が出て被害が出ていることもショックでした。唯一の被爆国である日本でそれらの事実を教えるだけでなく、海外でも教える必要があると実感しました。

映画『おかあさんの被爆ピアノ』では、被爆ピアノの存在とそのピアノを使って活動している矢川さんの存在を初めて知りました。矢川さんの素晴らしい活動をもっと多くの人に知ってもらいたい、この映画を全国の学校で上映して欲しいと思いました。そして私は、映画の中の母親の気持ちが痛いほどよくわかりました。

実は、私も被爆しているからです。東日本大震災時、3月11日の母の誕生日を祝うために帰省していた私は、家族と一緒に被災しました。福島の実家は海から離れていたため津波の被害はありませんでしたが、その後の原発の爆発で放射能が福島市内まで飛んできてしまいました。水道が止まっていたため水をもらいに近くの公民館に行かなければならず、そこまで深刻な状況だとも知らずに外出して、放射能も浴びてしまったし、放射能を含んだ雨にも当たってしまいました。その時まだ子供がいなかった私は、新聞記者の友達から「子供産みたいならすぐに東京に帰った方がいい」というメールをもらいました。でも、新幹線は止まっているし高速は緊急車両しか通行できないし、車にガソリンを入れることもできない状況で、帰ることができずにただただ心配な日々を過ごしました。その後何とか帰宅し、すぐに不妊治療を始めた私は、心配で福島で被災したことを病院の先生に話しました。すると先生がカルテに福島で被爆と記入しました。広島の原爆のことを多少は勉強したり見聞きして知っていた私はとてもショックで、被爆で子供にどんな影響が出るのか、子供が差別を受けたり、大人になって結婚するときに相手はその状況を知って悩まないとか、何世代に

も渡ってその事実苦しむことになるのかとか、本当に悩みました。毎日チェルノブイリや広島のことを調べまくって色んな事実を知る度に、産んで子供や孫が苦しむことになるくらいならやはり子供は諦めようかと思い、福島に実家があることも、原発が福島にあることも、津波が来たこともそれを想定できなかったことも、原発が爆発して深刻な状態なのに外出してしまったことも、黒い雨のことを知っていたのに原発爆発後の雨を浴びてしまったことも、全てを恨みました。

私は10日間ぐらい福島にいただけですが、福島にいた若い母親達はもっと苦しんだと思います。実際小さい子供が3人いた従姉妹は福島から避難したし、子供を持つ沢山の母親が県外に避難しました。その後数年は小さい子供を外で見かけなくなったし、除染もすぐには終わらず線量計を持ち歩く生活が続き、外では深呼吸もできず、見えない放射能との闘いが続きました。未だに除染した土が黒い袋に入れられて山の斜面を埋め尽くしているのを見たり、震災時福島にいた姪っ子の甲状腺が少し腫れているという話を聞いたり、まだ続く放射能の影響を目にする度、私はやはり広島を思い出さずにはいられません。その後私は決心して子供を産みましたが、私や福島で被爆した親の心配は続くと思います。

原爆はもちろん放射能はその時だけでなく、その後もずっと人々を苦しめ続けます。広島の惨状を知っていても、原発を作ったり、核を保有したり、地球から核がなくなることはありません。安全だと言われた原発も、もはや安全なものではないこと

は明らかです。起こってしまったことは変えることができないけど、未来は変えられます。自分の子供にもこれから生まれてくる子供にも、マイナスしか生み出さない戦争や、長年に渡って人間を苦しめる核の恐怖を経験して欲しくありません。核廃絶へ進もうと言っているのに、逆行している世界。この流れを少しでも早く止めなければならぬと改めて強く思いました。

今回このような貴重な経験をさせて頂いた日本生活協同組合連合会のみなさんや、パルシステム埼玉の方々、本当にありがとうございました。暑い中本当にお世話になりました。まずは知ることからはじまると思います。初めの一步は踏み出すことができたので、これからはそれを深めたり、広めていくことができればと思います。まずは、息子に被爆のことをわかるように話してみます。

ピ	ー	ス	ア	ク	シ	ョ	ン	in	ヒ	ロ	シ	マ	に	参	加	し	て		
我	が	家	は	パ	ル	シ	ス	テ	ム	を	利	用	す	る	よ	う	に	な	
っ	て	10	年	弱	と	な	り	ま	す	が	、	生	協	で	今	回	の	よ	
う																			
な	企	画	を	行	っ	て	い	る	こ	と	を	全	く	知	り	ま	せ	ん	
で																			
し	た	。	い	つ	も	の	よ	う	に	パ	ル	シ	ス	テ	ム	の	商	品	の
注	文	を	ス	マ	ホ	で	行	っ	て	い	た	と	こ	ろ	、	偶	然	に	も
こ	の	企	画	の	案	内	が	目	に	つ	き	、	迷	う	こ	と	な	く	す
ぐ	に	応	募	し	ま	し	た	。											
と	い	う	の	も	私	は	昨	年	、	好	き	な	ア	ー	テ	ィ	ス	ト	
の	ラ	イ	ブ	が	き	っ	か	け	で	子	供	と	共	に	広	島	へ	一	度
訪	れ	て	い	ま	す	。	本	来	で	あ	れ	ば	、	せ	っ	か	く	広	島
へ	行	く	の	な	ら	、	平	和	記	念	公	園	や	平	和	資	料	館	を
回	っ	て	子	供	と	一	緒	に	戦	争	に	つ	い	て	知	識	を	深	め
た	か	っ	た	の	で	す	が	、	滞	在	時	間	が	短	か	っ	た	た	め
に	叶	わ	ぬ	ま	ま	帰	路	に	つ	き	ま	し	た	。					
そ	れ	が	残	念	で	、	ま	た	来	年	か	再	来	年	に	広	島	へ	
行	か	な	い	と	ね	、	と	子	供	た	ち	と	話	し	て	い	た	と	い
う	経	緯	が	あ	っ	た	の	で	す	。	そ	し	て	当	選	の	メ	ー	ル
が	届	い	た	と	き	は	、	本	当	に	嬉	し	か	っ	た	で	す	。	

ま	ず	、	事	前	の	オ	リ	エ	ン	テ	ー	シ	ョ	ン	は	と	て	も	
緊	張	し	ま	し	た	が	、	他	の	ご	家	族	の	方	も	我	が	家	と
同	じ	く	、	お	母	様	と	お	子	様	で	の	ご	参	加	で	し	た	の
で	、	と	て	も	安	心	し	ま	し	た	。	ま	た	、	本	部	の	方	々
も	感	じ	が	よ	く	、	親	切	に	ご	対	応	く	だ	さ	っ	た	こ	と
も	安	心	の	材	料	と	な	り	、	親	子	共	々	当	日	が	早	く	来
な	い	か	と	楽	し	み	に	待	っ	て	い	ま	し	た	。				
	実	際	に	参	加	し	、	原	爆	ド	ー	ム	や	平	和	資	料	館	の
写	真	な	ど	を	目	の	当	た	り	に	し	た	と	き	は	、	半	分	楽
し	い	旅	行	気	分	だ	っ	た	気	持	ち	が	、	言	葉	に	は	表	し
よ	う	の	な	い	悲	し	み	の	よ	う	な	怒	り	の	よ	う	な	、	そ
ん	な	気	持	ち	に	な	り	ま	し	た	。	子	供	た	ち	も	同	じ	気
持	ち	だ	っ	た	と	は	思	い	ま	す	が	、	い	ま	ひ	と	っ	現	実
味	を	感	じ	な	い	と	い	う	か	、	他	人	事	の	よ	う	に	思	え
た	と	言	っ	て	い	ま	し	た	。										
	た	し	か	に	今	の	子	供	た	ち	は	、	戦	争	に	つ	い	て	知
る	機	会	や	考	え	る	機	会	が	非	常	に	少	な	い	と	思	い	ま
す	。	私	が	子	供	だ	っ	た	頃	は	、	戦	争	を	経	験	し	た	祖
父	母	か	ら	空	襲	の	話	や	戦	時	中	の	生	活	に	つ	い	て	話
を	聞	く	機	会	が	あ	り	ま	し	た	。	し	か	し	戦	後	79	年	の

今	、	戦	争	経	験	者	は	ほ	と	ん	ど	身	近	に	は	お	ら	ず	、
学	校	の	教	科	書	で	少	し	触	れ	る	く	ら	い	で	す	。	今	回
こ	の	企	画	に	参	加	で	き	た	我	が	家	は	、	戦	争	の	悲	惨
さ	や	化	学	兵	器	の	恐	ろ	し	さ	を	目	の	当	た	り	に	し	た
こ	と	で	戦	争	に	つ	い	て	深	く	考	え	出	す	き	っ	か	け	が
で	き	ま	し	た	。	し	か	し	、	毎	日	の	忙	し	さ	を	理	由	に
時	間	と	共	に	こ	の	き	っ	か	け	が	風	化	さ	れ	て	し	ま	っ
て	は	も	っ	た	い	な	い	で	す	。	そ	の	た	め	、	戦	争	に	つ
い	て	考	え	る	機	会	を	今	後	も	さ	ら	に	増	や	し	て	い	か
な	け	れ	ば	な	ら	な	い	と	考	え	て	お	り	ま	す	。	学	校	で
も	も	っ	と	戦	争	や	平	和	に	関	す	る	学	習	の	機	会	が	増
え	れ	ば	よ	い	の	で	す	が	、	昨	今	の	表	現	の	規	制	等	が
邪	魔	を	し	て	い	る	こ	と	が	本	当	に	も	っ	た	い	な	い	で
す	。	「	は	だ	し	の	ゲ	ン	」	も	不	適	切	扱	い	さ	れ	る	と
は	と	て	も	信	じ	が	た	い	で	す	。	こ	の	ま	ま	で	は	近	い
将	来	、	戦	争	を	全	く	知	ら	な	い	人	だ	け	の	社	会	に	な
っ	て	し	ま	い	そ	う	な	気	が	し	ま	す	。	そ	う	な	ら	な	い
た	め	に	も	、	今	後	も	ぜ	ひ	生	協	さ	ん	に	は	引	き	続	き
今	回	の	よ	う	な	活	動	を	続	け	て	い	た	だ	き	た	い	と	思
い	ま	す	。	1	日	目	に	傍	聴	し	た	河	野	キ	ヨ	美	さ	ん	に

よ	る	被	爆	の	証	言	も	非	常	に	印	象	に	残	り	ま	し	た	。
実	際	に	広	島	で	被	爆	し	た	方	の	生	の	声	を	聴	く	こ	と
は	本	当	に	貴	重	な	体	験	で	す	。	竹	槍	訓	練	の	お	話	や
原	爆	を	落	と	さ	れ	た	日	の	お	話	も	伺	っ	て	、	戦	争	の
悲	惨	さ	だ	け	で	な	く	愚	か	さ	も	知	り	ま	し	た	。	我	々
身	近	な	大	人	が	子	供	た	ち	に	常	々	伝	え	て	い	く	こ	と
も	使	命	で	す	。														
	卓	球	の	早	田	選	手	で	は	あ	り	ま	せ	ん	が	、	知	覧	の
特	攻	資	料	館	に	も	い	ず	れ	連	れ	て	い	き	た	い	で	す	。
今	後	二	度	と	悲	惨	な	戦	争	が	起	こ	ら	な	い	こ	と	を	願
う	ば	か	り	で	す	。													
	こ	の	た	び	は	貴	重	な	体	験	を	さ	せ	て	い	た	だ	き	、
誠	に	あ	り	が	と	う	ご	ざ	い	ま	し	た	。						

今日、この様な企画に親子で参加させて頂き、ありパコウございました。

私にと、この広島訪問は、高校の修学旅行以来でした。当時の平和記念資料館では、凄惨な展示物と見て目を背ける事が多く、その反面、こんな悲惨な戦争は日本は憲法もあるのだからもう起きる事はないと不思議に安んじていたのを憶えています。しかし、テロや戦争が世界各地で勃発し、日本も対岸の火事では無く、な、た昨今、一人一人の平和への意識、取り組みが大切と、感じる事をこのピースアクションinヒロシマに参加した事で、心に強く響きました。

平和資料館では、罪の無い一般市民が一発の原子爆弾により殺戮され、生き残った人々にも辛い後遺症を抱えて生きる事となりました。何故、こんな事ができるのでしょうかと怒り、さる感じました。その後の河野キヨ美さんの証言では、実際、その時の広島的情景等まるで自分自身がその場に居た様な臨場感の

K.Sさん

ある実話を聞け、また改めて平和、広島と
う土地を考えるき、かけにもなりました。

二日目、おがめさんの被爆はくどアノの上映
において、被爆二世の立場も折り混ぜたが
ら、実際モークに、た、た矢川さんの思い等
被爆アノを通して様々な方々の立場、思い
が表現されており、最後は何とも言えない気
持ちになりました。

映画を終えた後は、平和記念公園を散策し
ました。翌日に式典を控え、辺りは観光客の

他、市民団体や宗教団体等もそれぞれの想い
を表現しておりました。明日の式典ではまさ
に、今、自分が佇むこの地で献花されるのだと
思うと一層感激深く感じました。一泊二日の
忙しい平和の旅となりましたが、親子で改め
て平和とは何かと考える旅になりました。あ
りがとうございました。

必帰宅してから驚いた事に、たまたま8/10の
朝日小学生新聞に被爆アノが特集されてお
りました。今回広島に行き、上映を見なければ

7
「お前さん」ともいえる様に新聞と読んでおりました。
戻せず、自分の新聞とがっていたと思えます。娘は「被爆セリ」だ
と書いていたと聞いておりました。

K.Sさん

一し。んで消えたまち

一九四五年八月六日色とりどりできれいな
まちだった。八時十五分何がおこったかわら
ないような見たこともない光、すぐ熱い何
かがおち、一し。んでまちは消えた。人々は
そく死した人もいれば、やけどをしてひふ
がたれさがついている人もいた。やけどをしな
くて生きられた人でも、何日か後に死んで
しまった人もいた。八時十六分には、まちは

黒いまちで何にもないくらいすごかった。何
かというのには世界ではじめて広島に「原
子ばくだん」がおとされた。

わたしは、このじつをのこした。広島平
和しりょう館^レに行きました。この平和しり
ょう館^レに行き、いろいろなことを知りまし
た。時計は、八時十五分で止まっていた、いろ
んな写真や絵があり、本当にその時、つめのな
い人々が死んでしまったということがわかり
ました。しかも、し。う言も聞き、えいかも

K.Hさん (小学生)

見て、本当にこねか、たです。
そして、わたしは、二度とこのようなことが
おこらない、せんそうや、かくへいきもない
世界を作りたいです。

K.Hさん (小学生)

ピースアクションへの参加を終えて

私は、今回バルシマテムのピースアクションに参加させていただく機会をいただけたことと、初めて広島に降り立ったことができた。原爆は恐ろしい、戦争を二度と起こしてはいけない、という周知の事実がうやむやいだけの言葉では分かっていたものの、実際の地に降り立ち見えてくることがあるはずだ。

百聞は一見にしかずと思い、参加を希望しました。

実際に広島に降り立った時、活気あふれる駅ビル、混雑して観行客も多い路面電車、立ち並ぶビル街、路面電車に乗車し、見えた山や川には、原爆が落とされた痕跡は微塵も感じられませんでした。その後、原爆ドームも見学させていただき、原爆の破壊力などをまじまじと受け取ることでできました。さらに、広島平和記念資料館を見学し、足か棟

O.Mさん

サッとも、一九四五年八月六日の惨状の写真
や遺品から一瞬も目をそらすことができません
んでした。アメリカがうらめしく思えてしま
いました。被爆者の方々の手紙や日記にも胸
がつまる思いでした。
また被爆者の河野キヨ美様の貴重な証言
も聴講することになりました。櫻氏二百石度
の熱線や爆風、その恐ろしい光景をたれるこ
とができないと涙ながらにおしゃっていた
ことに、胸のつまるような思いでした。夢に
少年が叫ぶ姿が現れたことから、絵に描き残
してくださったことに頭が下がる思いでした。
私だったら辛い思いを思い起すことにな
るで描けなかつたと思います。また核兵
器を作らないように話し合いで戦争しない
ような世界になってほしいといえる
葉に残された日本人の私達の重責を感じま
した。
映画「おかあさん」被爆ピアノも上映し
ていたとき、初めてこのような映画があるこ

O.Mさん

とも知り、パルシスティ各地方ごとにも、また
小、中学校などでも上映していただければ、
もっと戦争の悲惨さを認識していただけるの
ではないか、と思いました。

今回のゼースアクションを通じて改めて
核兵器や戦争の恐ろしさを認識するのと加て
きました。一緒に参加させていたただいた娘の
心にも響いてくれたようです。貴重な取り組
みもすわっているパルシスティの活動にも感銘
を受けました。これからパルシスティ会員
として、少しでも平和活動に携わっていきな
い、と思います。

O.Mさん

広島の惨劇から学んだこと
私は今日のピースアークシアターに参加したこ
とで命の大切さ、日常のありがたさを改めて
平和になることの難しさを感じました。
一日目の原爆の記念資料館のようなくろ
で原爆でどれだけの人が死んだのかや、
死んだ人の木練や家族の思い、当分の恐ろ
場面を表した絵などを見て今は原爆から時間
が少したち今の幼い子どもなどは原爆の悲惨さを
あまり理解できていないのではと思います。中学な
どの修学旅行などに広島に行くと原爆の悲惨
さを見たほうがよいと思います。
今、日本は北朝鮮からミサイルを飛ばされ
ていていつ日本に届いてしまつかわからない
のでいつ壊れてしまつかわからない日常生活を大
切に過ごしていきたいと思います。
そして、こんなに悲惨な事件があったのに
たくさん人の国がまだ原爆や核を所持して
いることを悲しく思うとともに、だれかが核を最初

O.Rさん（中学生）

に捨てて世界が平和になろうと永くなりたい
けなかがどの国も核を捨てたと同時に攻め
されたりするの怖く核を捨てれないのだな
と考え、残ね人になりたかった。
私は今後今ある幸せな日常や家族友達
などを大切に思いながら生きていき、原爆の
悲しさを忘れずにいたいと思います。

O.Rさん (中学生)